

# 経済建設委員会行政視察報告

視察第1日 兵庫県 丹波篠山市 2023年5月9日(火)

視察先・視察項目

## 丹波篠山市役所 「丹波篠山市における野生動物被害対策」

### 【丹波篠山市の概要】

丹波篠山市は、平成11年4月1日に多紀郡4町（篠山町・西紀町・丹南町・今田町）が合併し市制が施行され、市制施行20周年を契機に令和元年5月1日に市名が丹波篠山市に変更された。

兵庫県の中東部に位置し、北は丹波市と京都府の福知山市、東は京都府船井郡と南丹市、西は西脇市と加東市、南は三田市と河辺郡等にそれぞれ接しており、京都市から40～50km圏内、関西経済圏の中心都市大阪から40～50kmにあつてJR福知山線、鶴舞若狭道、国道173号、176号が走り、兵庫県の内陸地域として、自然環境豊かな生活・文化のまちである。

地勢については、南方に連坦する山並みと平行して、丹波篠山北方の多紀連山山地が

東走し、平坦部はこうした山々に囲まれて広がっており、その中央部を加古川水系篠山川が西流し、別に北へ由良川、南へ武庫川が流れている。市街地及び集落は主としてこの地域に形成されている一方で、篠山盆地といわれるだけに四方が山に囲まれ、全面積の7割を占めている。

「車窓から望む丹波篠山市内」

「丹波篠山市役所」



## ○気 候

冬期は日本海からの寒波の影響も加わり寒気は比較的厳しく、冬は高温で概して内陸的気候と言える。また秋から冬にかけて盆地特有の濃霧の発生を見る地域である。

※（令和5年度 兵庫県丹波篠山

市議会概要）より引用

## ○人口と世帯数

総人口：39,426人

男性（18,967人）

女性（20,459人）

総世帯：16,830戸

※2023年5月2日現在

## ○面 積

377.59 km<sup>2</sup>

農地：44.2 km<sup>2</sup>

宅地：9.9 km<sup>2</sup>

山林：166.9 km<sup>2</sup>



「視察研修」

## 実態把握について

野生動物の生息状況と被害の現状は、兵庫県森林動物研究センターによる調査研究のほか、兵庫県での狩猟者アンケート（出猟カレンダー等）や農政協力員に対して実施されている野生動物の被害状況に関するアンケート調査、丹波篠山市の農作物被害アンケート及び農業共済被害申告により把握されている。

またニホンザルは、これらに加えて篠山地域個体群（京都府丹波南管理ユニット）の生息状況調査と被害状況が把握されている。

### 1 視察目的

野生動物と人間が共生するために行政・ボランティア団体・住民が、互いにどのような役割を担い、どのような協力をしているのか相互の取組を視察する。

### 2 視察内容

#### 2-1 鳥獣別被害状況と被害の傾向性について

### ① シカ

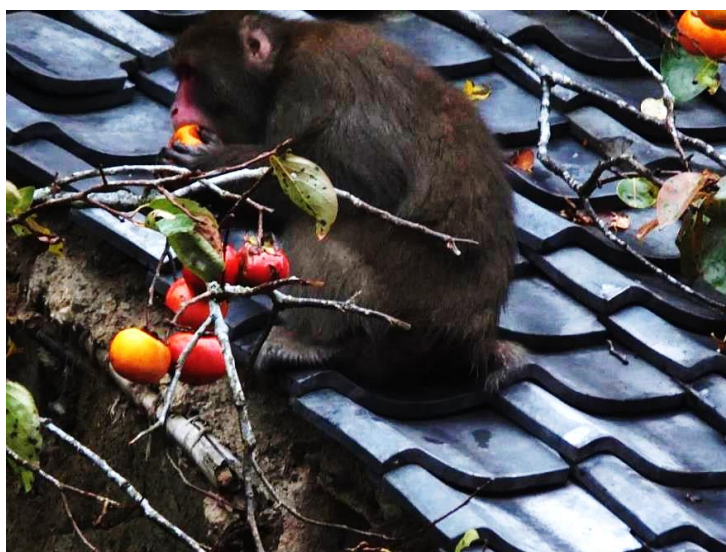
シカによる農作物被害は、田植え直後の水稻や丹波篠山の特産物である黒大豆など主要販売作物への食害が発生しているほか、自家野菜への被害も発生しているが、捕獲によるシカの生息数の低減及び侵入防止柵等による被害対策により、被害の軽減に一定の成果が確認されている。

### ② イノシシ

イノシシによる農作物被害は、水稻や篠山の特産物である黒大豆、山の芋のほか栗などの主要販売作物への被害が発生しているほか、自家野菜への被害や畦畔の掘り起こしなどの農業施設被害も深刻であるが、シカと同様に捕獲によって生息数の低減及び侵入防止柵等による被害対策が一定の成果に繋がり「深刻」の度合いは軽減の方向にある。

### ③ ニホンザル

各群れは一定の範囲（行動圏）をもち、市域・県域を越えて動き回っているため地域によって被害の発生頻度や時期が異なっている。また被害作物は、特産の黒大豆等豆類や山の芋などの芋類、野菜・果樹等多岐にわたる。また被害額として計上されていない自家用野菜（大根・玉ネギ・かぼちゃ・トマト・さつまいもなど）の被害も大きい。加えて一部の人馴れの進んだ個体が家屋へ浸入するなど生活環境被害も発生しているほか、威嚇する個体も確認されている。



なお近年、監視員調査ではサルが集落周辺まで接近するも集落内で

目視される頻度は低減が見られる。これはサル用複合柵（サル用電気柵）の設置や、メールによる位置情報の取得を活かした集落ぐるみの追い払い、個体管理等によりその効果が出ているものと考えられる。特に従来から局所的に被害の激しかった集落は、サル用複合柵を優先的に支援したため、集落内への出没など被害が減少する傾向にある。

しかしその一方で、これまで出没頻度が少なかった地域での出没が増えてきたことが確認されており、被害の対策が進んでいない地域では、現在もサルが出没して、一定の被害を受けていることから、農会や農家の意識として被害が減少したと感じるには至っていない。

#### ④ アライグマ

アライグマによる被害は、特産の黒大豆等の豆類をはじめブドウなどの果樹類などの販売作物や自家野菜に被害が及んでいるほか、家屋の屋根裏や農業用倉庫などに巣を作り生活環境被害を発生させている。

被害の範囲は、依然として市内全域に及んでいるものの、兵庫県森林動物研究センター等の調査によると、市内全域で減少していることが確認されている。平成29年農会の意識調査において回答のあった157農会の内、被害が「大きい」もしくは「深刻」と回答した農会が8.9%となっており、被害の減少傾向が示されている。

### まとめ

被害の現状においては、圧倒的に被害面積・被害金額ともに、シカとイノシシの規模の割合は高いものの、ニホンザルの農作物や果実などの「食い荒らし」による農家に与える精神的ダメージは、ことのほか大きく離農者の増大など市全体に大きな影響をもたらされていることからサルによる対策が急務になっている。

## 2-2 有害鳥獣による農作物被害対策の3つの基本

### 1 有害鳥獣に農作物を食べさせない

#### 【対策1】農地をしっかりと防御する

「間伐材の崩落で損傷した柵」

- ・ 獣種に応じた効果的な柵の設置支援
- ・ 侵入防止策の維持管理と機能維持のための手法等の普及啓発、指導、支援
- ・ 電気柵等の効果的な設置方法及び安全対策等の普及啓発、指導



#### <課題>

防護柵の維持管理（点検・修繕）を担うための人材の不足と、費用負担の増大が現状に於いて大きな負担になっている。特に倒木や間伐材等の崩落によって防護柵の破損や損傷による費用負担が大きな課題になっている。

## 2 有害鳥獣を減らす



### 【対策2】個体数の管理

・ 鳥獣被害防止特措法に基づき、被害防止計画に基づく捕獲といった実践的活動を行う「鳥獣被害対策実施隊」を平成29年より設置

- ・ 非常勤の特別職の公務員（4支部61名を組織化）
- ・ 銃刀法の技能講習の免除、

狩猟税の軽減措置、市町村が負担する活動経費に対する特別交付税措置などの優遇措置

・ 市単独で実施部隊確保のため狩猟免許所得に必要な経費を補助金で支給

・ ICT大型捕獲檻（遠隔監視・操作が可能）の活用

・ 発信器を用いた被害集落等への情報提供（サルメール・位置情報把握の普及と活用）

等の取組と合わせ、市の猟友会に委託し「鳥獣被害対策実施隊」を組織し活動の展開を図るなかシカ・イノシシ・サル・アライグマなどの捕獲が着実に伸びている。

## 3 できることは自分でやる（住民参加）

### 【対策3】ICTなどの積極導入

・ 集落ぐるみの追い払い支援  
(サル対策出前講座の開催)

—内容—

- 1) 専門家による座学研修
- 2) 追い払い技術指導（屋外）
- 3) 作戦会議

・ 林辺整備事業と集落ぐるみの追い払い

雑木を伐採し森林を見通し良く整備し、ロケット花火を威嚇発砲

・ 獣害対策実践塾の開催

「追い払い技術指導」出前講座にて



☆世代を超えた多くの市民が、鳥獣害に関心を持ちワークショップを通して主体的な対策会議を開催

「対策会議でのワークショップ」

## 獣害対策の課題

生産者（農家）と捕獲者（猟師）双方の高齢化と、担い手の減少により休耕田が増加し、狩猟機会の減少により、野生動物が出没しやすく、獣害が起こりやすい環境への変化が進んだため「多様な人材が獣害対策に携わり、個々人による主体的な取組みが求められる。



## 3 所感

「活気ある集落を増やして、人が集まる魅力ある丹波篠山にする」これを、市の鳥獣害対策推進の理念に掲げ集落ぐるみの展開を図る過程において、鳥獣害対策をまち全体で解決すべき課題と捉え、行政や猟友会をはじめ、農林振興事務所や警察署などの関係機関が連携するなか、幅広い世代の市民が協力し合いの知恵を持ち寄って、住みよい環境を目指す取組を確認した。

加えて、丹精込めて育てた農作物が、一夜にして惨状と化した田畑を目の当たりにした時の、生産者の言葉にならない悲痛や失望は如何ばかりのものであるか。獣害によって多額な損益を抱え、経済的にも精神的にも受けるダメージは余りにも大きく、多くの農家が「離農」の選択に追いやられる現状に対し、新城市においても同様の構図があることを感じた。

また、鳥獣駆除に係る一個体当たりの報酬の手厚さも、丹波篠山市の特徴的なものであり、それは猟師の「やる気の換気」に繋がる事例であるとともに、丹波篠山を流通の拠点として大規模な民間加工場を運営し、独自産業として安定したジビエ肉を全国に流通させる取組も、獣害対策の効果的な先進事例として認識。

2023年5月17日 鈴木 長良